

# 「令和6年度全国学力・学習状況調査」新城市の状況について

新城市教育委員会

本調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握し、その結果を今後の教育活動に役立てていくことを目的としています。令和6年度の結果から分かる児童生徒の状況を報告します。

## 1 調査概要

- (1) 調査実施日 令和6年4月18日(木)
- (2) 調査対象 市内小学6年生、中学3年生
- (3) 調査事項 教科に関する調査(国語、算数・数学)  
質問紙調査(学習・生活)

## 2 各教科の調査の結果(全国の平均正答率との比較)

### (1) 小学校

	調査の内容・領域
国語	<p><b>全国の平均正答率と比較し、やや優れている部分</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する力。</li><li>・話し言葉と書き言葉との違いに気付く力。</li><li>・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする力。</li></ul> <p><b>全国の平均正答率と比較し、やや弱い部分</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力。</li><li>・文の中における主語と述語との関係を捉える力。</li><li>・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を元に捉える力。</li></ul>
算数	<p><b>全国の平均正答率と比較し、やや優れている部分</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する力。</li><li>・道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する力。</li><li>・角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する力。</li></ul> <p><b>全国の平均正答率と比較し、やや弱い部分</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す力。</li><li>・円のグラフの特徴を理解し、割合を読み取る力。</li></ul> <p><b>全国の平均正答率と比較し、弱い部分</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する力。</li><li>・直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解する力。</li><li>・速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する力。</li></ul>

(2) 中学校

問題調査の内容・領域	
国語	<p><b>全国の平均正答率と比較し、優れている部分</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて必要な情報に着目して要約する力。</li> <li>・表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する力。</li> </ul> <p><b>全国の平均正答率と比較し、やや優れている部分</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文の成分の順序や照応について理解する力。</li> <li>・話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる力。</li> <li>・文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する力。</li> <li>・目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする力。</li> </ul> <p><b>全国の平均正答率と比較し、やや弱い部分</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて質問しながら話の内容を捉える力。</li> <li>・文脈に即して漢字を正しく書く力。</li> <li>・意見と根拠など情報と情報との関係について理解する力。</li> </ul>
	<p><b>全国の平均正答率と比較し、やや優れている部分</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力。</li> <li>・グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈する力。</li> </ul> <p><b>全国の平均正答率と比較し、やや弱い部分</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す力。</li> <li>・統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する力。</li> <li>・等式を目的に応じて変形する力。</li> </ul>
	<p><b>全国の平均正答率と比較し、やや優れている部分</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力。</li> <li>・グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈する力。</li> </ul> <p><b>全国の平均正答率と比較し、やや弱い部分</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す力。</li> <li>・統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する力。</li> <li>・等式を目的に応じて変形する力。</li> </ul>

3 生活状況に関する質問紙調査の結果

児童生徒への質問	児童生徒の回答の状況
学校に行くのは楽しいと思いますか	児童生徒ともに「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合が全国と比べやや上回る。
友達関係に満足していますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した中学生は、全国と比べやや上回る。小学生は同等。
人が困っているときは、進んで助けていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した中学生は、全国と比べやや上回る。小学生はやや下回る。
新聞を読んでいますか	「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」と回答した中学生は全国と比べやや上回る。小学生はやや下回る。

#### 4 学習状況に関する質問紙調査の結果

児童生徒への質問	児童生徒の回答の状況
前年までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した児童生徒は、全国と比べ上回る。
算数・数学の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答をした中学生は、全国と比べてやや上回り、小学生は同等。
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した小学生は、全国と比べてやや上回り、中学生は同等。
英語の授業の内容はよく分かりますか (小学生のみ)	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した小学生は、全国と比べやや上回る。

#### 5 調査結果の分析と、今後の指導改善等の取り組み

本年度の学力学習状況調査の結果から、児童生徒が学校に行くのが楽しい、友達関係に満足していることが確認できた。児童生徒にとって、学校がわくわくする場所であり、友達と楽しく過ごせる場所となっていることが分かる。

昨年度の調査に引き続き、多くの児童生徒は毎日あるいはほぼ毎日、朝食を食べて登校していることや、決まった時間に起床・就寝していることが確認できた。しかし、小学生においてテレビゲームをする時間が全国と比較して多くなっている。さらに、放課後や週末にテレビや動画、ゲームをして過ごす児童も多くなっている。このことから、家庭での時間の使い方をマネジメントする力を身につけられるように、家庭とも連携を図っていく。また、放課後や休日に小学生が安心して遊べる場所や児童生徒が気軽にスポーツや文化芸術活動などを行うことができる環境づくりに努めていく。

学習状況の調査より、GIGA スクール端末が、児童生徒にとって学習活動を充実させ、理解を深めるツールとして、定着してきていることが分かる。今後は、分からないことを調べたり、まとめたりするためのツールだけでなく、GIGA スクール端末を活用して、互いに考えや意見を共有したり、協力しながら学習を進めたりするなど、協働的な学びにつながるツールとして、これまで以上に GIGA スクール端末の活用方法を研究し、実践していく。

小学校、中学校ともに、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思うか」という質問に関して、前向きな回答している児童生徒が全国と比較して下回っていた。知識を獲得するだけの授業ではなく、児童生徒が生活する中で感じる疑問を授業に取り入れたり、教材を児童生徒にとって身近なものにしたりするなど、児童生徒が学びにのめり込む授業を目指し、授業改善を図っていく。

また、「困りごとや不安があるときに先生や学校にいる大人に相談できるか」という質問に関して、前向きな回答している児童生徒の割合が全国と比較して下回っていることが気がかりである。児童生徒の中には、様々な不安や悩みを抱えている子もいる。今後も、児童生徒が気軽に相談できる雰囲気を作るとともに、教職員が常にアンテナを高くし、児童生徒に寄り添った支援を心掛け、児童生徒にとって居場所のある学校づくりに努めていく。